子育て講演会

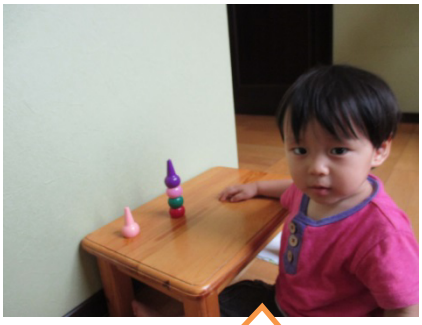
「モンテッソーリ教育ってなんだろう。」

講師　根本　華誉

ちゃいるどはうす保育園子育て支援センター

平成２８年９月１６日

マリア・モンテッソーリは、イタリアでローマの医学博士をしていました。ある時障害児との出会いがありました。一見パンくずをあさっているかの様に見える中に３本の指でパンくずをひろう姿を見たのです。脳科学から見ると脳の命令で指を動かして運動いる様子が見えたのです。やがて一かけらも残さずパンくずをひろいあげたその子は実に清々しく落ち着きと喜びに満ち溢れていたのです。モンテッソーリは、以降健常児からも同様の姿を見つけ出します。子どもは皆脳を使って「自分を自ら育てている」事実を医者の力眼と観察という方法で見つけ出します。



子どもたちも、お母さんの隣で座って絵本を見たり、お仕事をしていました。お母さんから離れてお仕事を楽しむお友だちもいました。

自立の獲得の過程に出てくる特徴に「敏感期」という時期があります。敏感期とは子どもがある時期にある感性が強力に働く時期のことです。例）子どもが指の動きを獲得したい時に無意識に紙を折ったりする活動に吸い付けられるように取り組む時期を手・指の運動の敏感期といいます。その他にも感覚の敏感期・秩序の敏感期・数の敏感期・言語の敏感期・文化の敏感期などがありますが、これらの敏感期はいつまでも続く訳ではなく一定期間持続するとその後消え失せてしまいます。「敏感期＝発達」ととらえられるためこの時期は子どもにとってとても大切な時期になります。

大人はこの幼児期の力が獲得できるための「環境」づくりをすることが大きな役割となります。その役割のお話を事例をあげてしていただきました。保護者の皆様方は華誉先生のお話を熱心にうなづき乍ら聞き入っていました。（本日はバンビーニ広場を含め先生方と保育園在園父兄４６名の参加となりました。